

## 第6回蒲田駅周辺地区グランドデザイン専門部会 議事要旨

日時：令和3（2021）年4月26日（月）10：00～12：00

場所：大田区役所本庁舎5階 特別会議室

委員：中井 検裕 東京工業大学 環境・社会理工学院 教授  
大沢 昌玄 日本大学 理工学部土木工学科 教授  
野原 卓 横浜国立大学大学院 准教授  
高橋 竜太郎 大田区鉄道・都市づくり部長  
齋藤 浩一 大田区まちづくり推進部長

### 1 開会

### 2 部会の成立

部会長より専門部会の開催要件と出席委員数が確認され、専門部会の成立が宣言された。

### 3 議事

議題：スケジュールについて

事務局より資料2を基に説明

（委員）

大田区都市計画マスタープラン（以下、「都市計画MP」という。）と蒲田駅周辺地区グランドデザイン（以下、「蒲田GD」という。）の素案公表、パブリックコメントの実施時期については、通常、下位計画から上位計画へあげていく流れだと思うが、同時期に行うことも考えられる。

（事務局）

現時点では、このスケジュールで進めていきたいと考えている。都市計画MP、蒲田GD、空港臨海部グランドビジョン（以下、「空港臨海部GV」という。）の3つの計画と連携・整合を図りながら進めていきたい。パブリックコメントについても同時期での実施も視野に入れて進めていく。

（事務局）

都市計画MPが区全域を対象とした計画なので、まず全体の計画を固める必要があるため、このような構成になっている。おっしゃる通り3つの計画を同時に行うという考え方もある。

（委員）

都市計画MPと空港臨海部GVの進捗はどのようになっているのか。

（事務局）

両計画ともに、順調に進めている。

議題：素案の構成について、アクションプラン（以下、「AP」という。）について

事務局より資料4及び資料5を基に説明

（委員）

AP9-2②「水害に強いまちづくりの推進」について、そもそも河川は東京都管理ではないか。

（事務局）

水害対策として護岸の改修をイメージしている。誤解が生じないように表現を整理していきたい。

（委員）

AP8-1②「オープンスペースの拡充」では、基本方針1におけるイベント開催時においても活用していこうという意図が見えるが、道路占用的なイメージが今回は少ないと感じた。

基本方針1活動（イベント）を展開する場所は、基本方針2「都市空間」で整備することになると思うので、どこかに入れた方が良い。

（委員）

AP7-2①「新たなモビリティ」とは具体的に何かを示した方が良い。

(委員)

AP5-4①「駅前広場の機能向上」とは、乗換え利便性の向上か、それとも乗り換えつつも“時間”を費やしてほしいのか。乗り換え時間がかからなくなる、かつ30分でも滞在してもらえ。それが駅前広場の機能向上のメリットである。時間を費やし、滞在してもらえようなAPが入ると良い。それがイベント関連のAPにもつながってくるのではないか。

(委員)

将来像、基本方針、目標など、似たようなカテゴリーが多すぎて分かりづらいため、整理が必要だと思う。また、第4章4はとても重要であり、骨格となる核や軸の骨格構造や東西を繋ぐことを示しており、まさに将来像である。その将来像を実現するためにいろいろなことを取り組んでいくことがAPだと思うので、その関係が見やすい流れになった方がわかりやすい。

(委員)

第6章アクションプランについては、各アクションを組み合わせ、順位付け、実施主体を考え計画するのが「アクションプラン」と考えると、第6章2の内容がアクションプランに近い。それを踏まえ、先ほどの第4章4で複数のAPに取り組んでいくことで将来像を実現していくという流れがもう少し見えた方が良い。

(委員)

資料5「基本方針2 都市空間の充実」は主にハード整備をイメージしているが、管理・マネジメントや今後のあり方も含めて考えた場合、2核1軸のうち1つの核である京急蒲田駅前は、駅前広場の整備が終わっているが、どのように活用して今後どのようにメンテナンスしていくか、そういう側面も踏まえた書き方になって良いと思う。

また、駅前広場についても単に乗り換え利便性だけではなく、そこに留まり、滞在してもらうことを入れるのであれば、しっかり目標・アクションとして打ち立てた方が目指す方向性が見えやすい。オープンスペースの拡充も同様で、具体的にどうするのか、活用・マネジメントという視点を含めて示せると良い。

(委員)

第5章の位置に違和感がある。第4章の中に入れ込むか、第4章4の都市構造をどこに持っていかという検討はもう少しした方が良い。

(事務局)

オープンスペースについては確かに見えにくいところが多い。ただ単に整備するだけでなく利活用、マネジメントを含めて示唆すべきとのご指摘がありましたので検討、深掘りする。

(委員)

AP12-1①の現行は「魅力ある広場作り」「魅力ある公園緑地づくり」と分かれていた。同じような内容かもしれないが、「回遊と交流を生む緑を感じる環境の創出」では抽象度が増したので具体的に何をやるのかが見えなくなった。少なくとも公園のリニューアルは考えた方が良い。

(委員)

京急蒲田駅の整備が終了し、大項目から抜けてしまったが京急蒲田周りをもう少し意識したほうが良い。例えば、JR蒲田駅から京急蒲田駅は都市構造的に人が流れるようになっているが、その逆向きの流れが非常に分かりにくい。どのように歩行者を誘導するか等を検討したほうが良い。駅周辺建物の建て替えなどがあるのであれば、京急蒲田駅は駅の構えをもう少し考えた方が良い。駅前広場はしっかり整備されているので、次の段階として、西口側を意識したほうが良いのではないか。

(委員)

京急蒲田駅は2核1軸の1つの核に位置付けているが、比重がJR・東急蒲田駅に偏っている。ウォークブルの視点で、公共空間、道路、公開空地の一体利用を含めて、JRと京急の間は歩いてもらうということにももう少し言及しても良い。

また、この蒲田GDは、今後蒲田のまちづくりを進めていく上での上位計画となり、本計画に基づき各事業が進んでいく事を考えると、総花的になってはいけませんが、いろいろなところに目を配っていく必要があると思う。

例えば、基本方針1「2産業ビジネス」については、羽田を産業の起点としたときに、川崎、殿町との関係性や相乗効果をどう持っていく、将来的に都市開発を誘導して産業系を入れる時に、どういう機能が良いのか。

AP2-2①「ビジネスパーソンを支えるプラットフォームの構築」では、日中はビジネス、就

業後にはビジネスパーソンがくつろげる空間が蒲田ならではであると思う。日中・夜間含め、ビジネスパーソンが留まりたいと思わせるような街づくりの設えについて言及しても良いのかと思う。

基本方針2「6歩いてめぐり楽しめるまち」では、オープンスペースが重要だと思う。道路空間だけではなく、防災の水害対策にも関連するが、立体的な都市空間について入れると良い。将来的には、道路上空や公共空間など都市を広域的に使う視点なども必要だと思う。

AP10-3①「全ての人を支える先端技術を駆使した環境の整備」では、誰もがイメージできるようにタイトルを工夫した方が良い。

AP11-2②「蒲田らしい固有の魅力を活かした景観の育成」では、蒲田らしい景観とは何かイメージがつきにくい。

AP12-1②「親水性の向上と潤いを創出する呑川の水質改善」について、水質改善だけで親水性が出るのか、検討してほしい。

次のAP12-2環境分野については、注目度が高いため、充実させても良いかなと思う。まちづくり、再開発を推進する際に、環境配分、場合によっては電気自動車なども含めて、少し先を見据えて記載しても良いと思う。

(委員)

現行の蒲田GDに記載されているAPは、概ね達成できていると思うが、個別にみて、まだ達成できていない項目については、引き続き取り組む必要がある。

AP9-2②「水害に強いまちづくりの推進」については、呑川ではハザードマップにおいて内水氾濫が想定されていることから、対策を記載する必要がある。

AP7-2①「新たなモビリティを受け入れる柔軟な交通環境の整備」については、蒲田から羽田までの交通手段として自動走行など新たなモビリティを活用するなど今後検討した方が良かったため、頭出ししても良いと思う。

また、他の地区との関係性が少し弱いと感じた。例えば、羽田イノベーションシティが整備されたことによって、中心拠点である蒲田にその効果を波及させるという事を入れた方が良い。蒲田GDの改定骨子4頁「蒲田に求められる役割」に羽田との関係を絵としてみせる事を考えた方が良い。

(委員)

今回のAPは問題意識のアプローチから出てきているが、客観的なデータからのアプローチも必要ではないか。客観的にデータを踏まえて現行APを残すものとプライオリティが付くものについて議論しなければいけないと思う。

(委員)

情報過多な気がする。場合によっては、都市計画MPで記載されることは頭出しくらいの表現にしておいても良いかもしれない。蒲田GDならではの視点が前面に出てくるように工夫が出来ると思う。

「環境」のように、それぞれの分野で共通して取り組まなければいけない事が多分あるので、複雑な構成にし過ぎると何のことがわからなくなってしまう可能性がある。1つのAPとして打ち出すべきか、各分野の中に表現すべきなのか検討する必要がある。場合によっては、総花的なものは都市計画MPで記載しているので、それを受けて蒲田地区でもやりますというような書き方もあるかもしれない。

また、臨海部との連携については少し意識された方が良いと思う。

## 議題：アクションプランの展開について

事務局より資料6を基に説明

(委員)

エリアと重点的に取り組むAP両方が記載されており、まさに都市構造を表現している。ただし、例えば「サインや看板の整備」との記載があり広くエリアとして取り組むことは理解できるが、特に京急蒲田とJR蒲田駅を繋ぐ経路についてはより充実させる必要があるなどが読み取れると、具体的でわかりやすい。今の段階だとエリアとアクションの話が結びついていないように見えるので、書き方を工夫してメリハリをつけた方が良い。

(委員)

1 頁目はあくまで将来的な位置づけなのに対し、2 頁以降はそれに対する A P であることから、蒲田 G D の構成では A P 一覧の後に載せるイメージか。

(事務局)

1 頁目は構成では第 4 章 4 を想定し、2 頁以降アクションの展開については A P 一覧の後に想定している。

(委員)

1 頁目の骨格構造については、素案では下のようなレベルの図を載せるとあるが、上の図の方がわかりやすいのではないか。

(委員)

1 頁目は重要で、第 4 章 4 はしっかり説明出来た方がよい。

また、2 頁目以降は、図と A P、将来イメージがリンクしているので、ここに記載されている A P がどのような内容であるのか確認するため、後ろのアクション一覧を見ると分かるというような構成でも良いのでは。ようするに、先に個々の A P を見せても、多すぎて分かりにくいので、2 頁目以降のように、場所別で将来イメージに向け、複数の A P を取り組むということを先に示唆した方がよい。

ただし、記載の A P を複合的に取り組むとどのようになるのかが表現されていないので、将来イメージで表現するのもかもしれないが、なぜこの A P が選ばれているのかがわかるとよい。

(委員)

2 頁目以降の図の下に「エリアの具体的な内容については今後検討します」と書かれているが、これはいつになるか。

(事務局)

次回の検討部会でお示しする。

(委員)

区民がイメージしやすい見せ方について考えると、資料の 2 頁目にイメージが示されているが、将来このようなイメージのまちなになると示した方がよいので、他のエリアでもこのような将来イメージ図を入れていただきたい。エリアの将来イメージを最初に出して、それを実現するために、どういう A P を展開していくかを示した方がよいのかもしれない。おそらく蒲田 G D の概要版では、この資料 6 の内容が中心になると思う。

(委員)

情報量が多くなることが懸念されるが、A P それぞれに SDG s の 17 目標が関係するのかが示した方がよい。

(委員)

東西連携軸は、JR・東急蒲田駅前拠点のエリア内に入っているので、同じ資料に記載されている方がわかりやすいのではないか。

議題：区民参画の実施について

事務局より資料 8 を基に説明

(委員)

オープンハウス型説明会の開催について了承。人が集まる駅前広場等でやれるとよい。

報告：第 3 回蒲田駅周辺地区基盤整備研究会の報告について

事務局より参考資料を基に説明

以上